富山市総合計画審議会第3回安心部会 概要

場所：富山市役所議会棟7階 第2委員会室

日時：平成18年2月14日(火)

10:00 ~ 12:00

1 開会

2 部会長あいさつ

宮田部会長 あいさつ

- ・ そろそろ各部会において、基本構想に盛り込むべき内容を詰める時期にきていることもあり、そのことを念頭に置いて、委員の皆さんには、活発な議論をお願いしたい。

3 議事

(1) 策定スケジュール(案)について

(2) 総合計画の体系(案)について

< 概要 >

(事務局) 議事(1)(2)の資料について説明

(部会長) まず、総合計画の体系図(案)から都市像の検討資料のあたりで少しご意見をお聞きしたい。

(委員) この総合計画と、平成13年度に作った旧富山市の総合計画や、合併時に作った建設計画は、どのような関係になるのか。

(事務局) 富山市に限らず旧市町村には、それぞれ総合計画があった。合併によって、消滅するものではないが、新市全体として見直した場合、変る部分もある。
建設計画については、旧市町村がそれぞれの立場で協議して作ったものである。この度の総合計画は、合併後に初めて作成するものであり、新しい計画としていきたい。

(部会長) 総合計画ができれば、それに置き換わると考えてよいのではないか。

(委員) 主要課題の1「少子化・人口減少への対応」の中に子供を産み育てやすい環境の創出とあるが、就労環境だけでなく経済支援を含めて考えるべきであると思う。

(委員) 数値目標を設定することが重要であると思うがどうか。

(部会長) 一般的には設定されるものと考えている。この計画もそうだが、下位計画の中でさらに具体的な目標設定が為されることになると思う。

(事務局) 数値化が困難なものもあるが、数値化に努めることも含めて、できるだけ分かりやすい目標設定としたいと考えている。

(部会長) 基本理念や都市像については、協働部会なり事務局で決めることになるのであろうが、皆さんの意見等をお聞きしたい。

(委員) 基本理念についての検討資料の中で、第4・6案にある多様な価値観を大切にすることは賛成だが、基本的な価値観ができていない子供が多い。普遍的な価値観を尊重することも記載しておく必要があるのではないか。

(部会長) 守るべきもの、変えるべきものを明確にすることなのだろうが、何を指すべきか模索が続いているように思う。

(委員) 第4案は、既に当たり前のことになっているのではないか。「新しい」とは何か、よく議論すべきであると思う。

価値観とは、ベースとなるものは何かということである。今の時代だからこそ、これを明確にすることが大事である。

(部会長) 今いただいた意見等も含めて、今後、事務局等で議論を深めていってもらうこととしたい。

それでは、政策1．すべての世代が共に学び豊かな心を育むまちづくりについて議論をお願いしたい。

(委員) スクラップ&ビルドの考えから発言させてもらうが、外国語専門学校は、4年制大学に対抗できるのか。

(事務局) 当初は高卒を意識していたが、現在は、実務のための外国語習得を目的として、短大等を卒業した方や、社会人、主婦等様々な人が学んでいる。教員の研修の場にもなっている。

(部会長) 選択と集中からの話題かと思う。外国語専門学校を含めた将来構想なり、行政改革大綱などはあるのか。

(事務局) 昨年12月に大綱は定めた。現在、実施計画の作業をほぼ終えた段階であり、今年度内には作りたいと考えている。

(部会長) それらを含めて全体的な整合を図るということでしょうか。

(事務局) そうです。

(委員) 社会教育と生涯教育の違いを明確にしていきたい。社会教育法という法律もあることから、はっきり明記すべきだと思う。

学校選択制は、地域活動に影響を及ぼすのではないかと。コミュニティ作りの観点からは、あまり進めてほしくない。

(委員) 学校選択制は、品川区がいち早く導入したと記憶しているが、その理由は、交通の便がよいことや、私学との競争や小学校の統合等があったためである。そもそも、富山市とは事情が異なるので、しっかり議論しないと大きな問題となる可能性がある。

コンパクトなまちづくりも同様で、周辺部から見れば、中心部に集められるという懸念がある。新市全体として、高齢者や子供が歩いて暮らせるような配慮が必要であり、慎重に議論していかなければならない。

(部会長) 政策2．いきいきと働き豊かに暮らすまちづくりと政策3．健康で健全に暮らす元気なまちづくりについて意見等はないか。

(委員) 女性の就労環境の整備について、育児の社会化ということもあるが、母親を教育者とみるか、労働者とみるかがポイントではないか。少なくとも3歳位までは教育者としてとらえるべきであり、こういった考え方を計画に盛り込んでほしい。

(委員) 親の育児能力をいかに高めるかが重要である。健全な児童育成の見地からは、妊娠中からの教育や男性の参加の場が必要だと考えている。

(部会長) 核家族化など、女性の就労環境も様々であり、家庭での子育てや働きながらの子育て支援等、多様な就労と子育ての総合的な支援の考え方が今の流れである。子育ては、時間よりも質が大事とも言われており、親が親として暮らすことを支援するという考え方である。

(委員) 妊娠中からの教育の考えに賛成である。そういった研修を受けた人に対して、生まれてから経済的な支援をしてはどうか。

(委員) 地域で放課後児童健全育成事業をやっているが、指導員のなり手がいない。親からの要望も多く、こういったところに行政的な支援ができないか。

(委員) 企業内保育をやっているところはあるのか。

- (事務局) 八尾の1企業がやっていると聞いている。市民病院にもある。
- (委員) 行政に頼るということは税金を使うということ。地域に頼るのは、高齢者を中心として地域に負担を強いるということ。本来は、企業がやらなければならない。
- (委員) 女性の就労支援の問題は、外国人労働者の受入れの問題にも繋がる。
- (部会長) グローバルな視点も重要ということか。
政策4．誰もが自立しやすさしさに包まれたまちづくり、政策5．共に生き共に支えるふれあいのまちづくりについてはどうか。これからは、市民も自立のために自ら努力し、これに対して行政が支援するという理念的なものに繋がっていくのだと思う。
- (委員) 家庭内暴力や児童虐待等に対応するため、育児保護司を作ってはどうか。また、家庭科の授業の中で家庭内の喜びなどを教えるべきではないか。
- (部会長) ご意見としてお伺いしておく。他にないか。
- (委員) 高齢者の住宅政策は、一人暮らしに特化してもよいのではないか。また、郊外の自宅を売却して中心部へ住み替えることについての支援策等は考えられないか。
- (委員) 高齢者の一人暮らしは相当いるし、予備軍も多い。10年・20年先を見て、どうあるべきか方向性を考えなければならない。また、いろいろな世代が混在する街にしていかなければならない。こういったことを、実施計画の中で明らかにしていただきたい。
- (委員) 公民館等の人の集まる場所はある程度整備されていると思うが、屋外で人が集まり交流する場も大事だと思う。今ある公園等は中途半端。
- (委員) 青年元気塾とあるが、どのような活動をしているのか。
青年団活動等は婦中地域でもだんだん衰退しているようだ。
- (委員) 実際、かなり衰退している。
今の若い人は、人と交わろうとしない人が多い。大人からの伝達が上手くいっていないものかもしれない。また、家庭教育以前に家庭内での会話が必要なのではないか。
コミュニティー再生の前に、若者を人前に出すことが大事である。

交流を求めている子は沢山いると思う。行事を企画して誘っても、親が出さない場合が結構多い。引っ張るだけでなく後押しする人が必要なのかもしれない。

(部会長) 学校等においてもサークル活動等は成り立たなくなっているようだ。

(委員) 婦中町は、生涯学習活動をいろいろやっていたが、新市は、生涯学習面で何を考えているのか。

(事務局) 総合計画の協議をしているのは、まさに新市が今後どうあるべきか考えようとしているのである。

青年元気塾とは、市民生活部で若者のネットワークづくりや社会参加を促す事業・仕掛けの一つで、新しい富山のまちづくりを牽引し、次世代を担うフレッシュなリーダーの養成をねらいにした事業である。

(部会長) それぞれの地域のよい経験を発信していくことが大事であろう。

(委員) 若い人の話が多かったが、今後は、高齢者の社会参加の側面も重要である。地域で活動していただくための場作りや、出てこない人への啓蒙など。

健康には、身体健康、心の健康、社会的健康の3つがあると聞いたことがある。社会的健康とは、出ることがおっくうでなく参加が楽しみであることをいう。健康なまちづくりには、閉じこもり防止の視点も必要である。

(部会長) 老人クラブ関係の指標だけでよいのか。団塊の世代が大量に地域に帰ってくる中で、これだけでは足りないのではないか。

では、議事の3地域別ワークショップについて事務局より報告願います。

(3) その他

・地域別ワークショップの結果報告について

(事務局) 議事(3)の資料について報告

(部会長) 多様な意見が出ているので、是非、活かしてほしいと思う。

これをもって、第3回安心部会を終了する。なお、本日の意見は2月27日に開催される協働部会において報告する。本日はありがとうございました。

4 閉会

(以上)